

活動速報はホームページに掲載しています <http://www.garan.ne.jp/ochi>



南相馬を自転車で巡る旅(3/22)▶

観光協会の有志主催による南相馬を自転車で巡るツアーに参加しました。津波被害にあった地域を自転車で散策したり、現地の自治会の方々と意見交換するなかで、4年前の震災で感じたことを改めて思い起こすことができました。

◀勝田マラソン給水ボランティア(1/25)

毎年恒例となっている県信前での給水ボランティア活動に参加しました。今年も、チョコレートやキンカンなどたくさん用意して、多くのランナーを激励しました。



VOICE

～リレーで綴る村民の声～

先日、長女の1歳の誕生日会で、丈夫に成長する願いを込めると、一升餅を小さなリュックに入れ背負わせたところ、手で支えてあげると何とか歩けた様子でした。

これまでに赤ちゃんサークルへ参加したり、「すこやかハウス」で小さな子ども達と遊んだり、子どもを通して多くの方々と交流する機会があると感じています。



高尾 浩樹さん (東海在住)

これから長女も外で遊ぶようになるので、ちょっとした広場でもいいので各地域に公園があると有難いです。期待しています。

編集後記

3月14日、東京・金沢間を約2時間半という驚異のスピードで移動することができる悲願の北陸新幹線が開通、というニュースが取り上げられ、開通に湧く北陸地方の歓喜の声が繰り返し報道されていた。

政府は、昨年暮れに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を決定し、東京一極集中の是正に向けた目標を掲げたが、果たして今回の北陸新幹線の開通は、地方創生の視点からどう作用するのか？

短期的に見れば、都心部から北陸地方を訪れる観光客で賑わうかもしれないが、中長期的に見れば、若年層の足がますます東京を意識するようになり、かえって東京一極集中を進行させるのではないかと私は危惧している。

本県でも、つくばエクスプレスの開通で県南地区は賑わっているが、県北地区の人口減少・人口流出には拍車が掛かったようにも感じている。

「地方創生」の行く末やいかに・・・。

(す)

わかば通信

東海村議会議員 越智たつや 議会報告



第29号

平成27年4月発行

発行人：越智たつや後援会
日立市幸町2-13-6
(日立製作所労働組合 日立支部内)
TEL 0294(26)0183
FAX 0294(26)0186

日頃のご支援に感謝申し上げます。

4月に入り、新しい年度がスタートしました。

人口減少・少子高齢化が顕在化するなか、「地方創生」の掛け声のもと、地域の活力をどう引き出すのか、ということがこれからの地方自治の大きな柱となります。

役場や自治会、そして様々な団体やグループとの連携を模索しながら、地域力・住民力の向上を目指して、頑張っていきます。

越智辰哉

▲ キャプション

NEWS

～ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします ～

民間バスの路線拡充を支援

マイカー利用による路線バスの需要減少や過疎化等の影響により、全国各地で民間バスの路線存続が危ぶまれています。

東海村では、高齢化の進展や交通弱者対策として平成18年からデマンドタクシー(対象：村内在住の方、運行範囲：村内)の運用を開始し、村内の公共交通の柱として事業を展開していますが、村外への移動手段やビジネス客など誰でも利用できる公共交通の確保が課題となっていました。

そこで、民間のバス会社と連携し、本年4月から既存の路線に加え、新たに村内外を往来する2系統の路線拡充を村として支援することを決定しました。

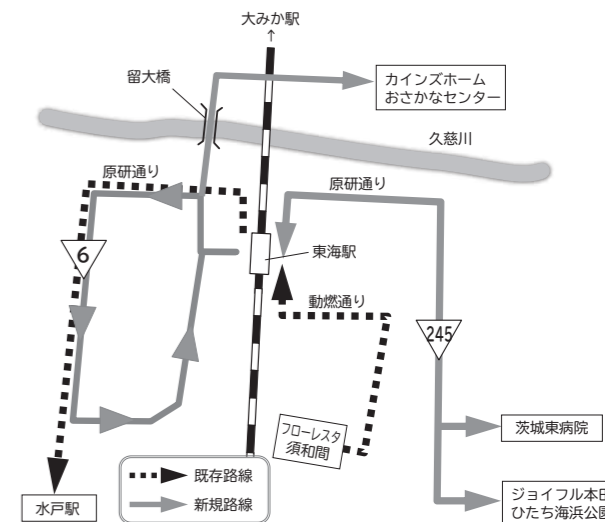
今後は、村のマスコットキャラクターである「イモゾー」でラッピングされた路線バスが村内外を往来しますので、通勤・通学や買い物などぜひともご利用下さい。

村政報告会のご案内

日時：平成27年5月16日(土)
10:00～11:00

場所：真崎コミセン会議室

※ どなたでも自由に参加できます。



一般会計191億円 前年比15%減の予算を可決

平成27年3月定例会を、3月2日から3月24日までの会期で開きました。

今議会では、平成27年度予算案や地方創生に関連する補正予算など全51件の議案について審議し、すべて原案のとおり可決しました。



▲4月から公立では初となる「認定こども園」として開所する「とうかい村松宿こども園」

新年度予算の概要

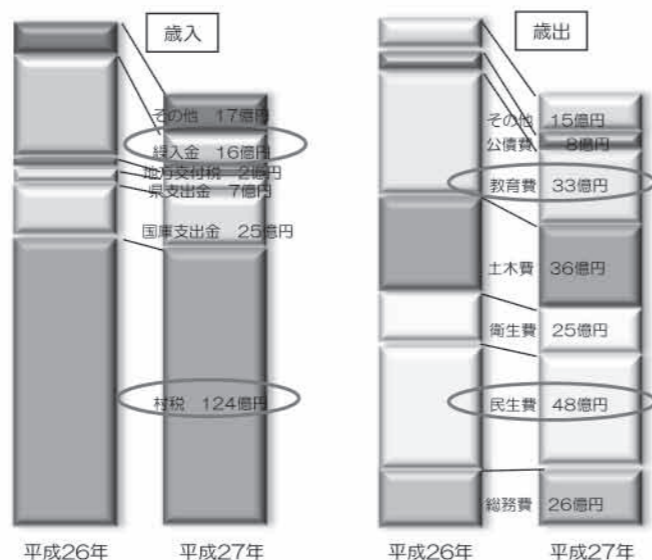
平成27年度一般会計の予算規模は190.04億円であり、前年度より約33億円減(約15%減)の予算となりました。

昨年度は、東海中学校の校舎建て替え工事や、宿幼稚園と村松保育所を統合した「とうかい村松宿こども園」の建設工事など大型の公共工事が終了したため、財政調整基金からの繰り入れが減少し、民生費および教育費の歳出が大きく減少しているのが新年度予算の特徴です。

また、新年度の予算編成に際しては、これまで取り組んできた全ての事業を洗い出し、事業の妥当性を評価し、今後の方向付けを行いました。その結果、下記表中に示すように事業について、平成27年度から廃止することとなりました。

今後も、行財財政改革の視点だけでなく、政策転換を含めた効率的な行政運営について、提言してきます。

歳入出総額191.04億円(対前年比33.3億円減少)



▼平成27年度から廃止する主な事業の概要

費目	事業内容	H26当初予算
衛生費	レンタサイクル「エコりん」の運営、役場庁舎のグリーンカーテンなど	539万円
民生費	後期高齢者への保険料助成制度、訪問看護等の在宅サービス利用料の助成制度など	9,768万円
総務費	ニートの就労的自立促進や就職相談会、原子力フォーラムの開催事業など	293万円



これに注目! 平成27年度の 新規・重点事業

● プレミアム付き商品券発行(2,300万円)



地域経済の活性化の起爆剤となり得るプレミアム付き商品券(1万円で1万2千円分の買い物が可能)を発行し、村内経済の活性化を図ります。

● 地域公共交通運営(7,015万円)



デマンドタクシーの運行経費に加え、新たに運行させる路線バスの運行経費を補助し、地域公共交通を拡充します。

● みんなのラジオ体操会開催(85万円)



ラジオ体操の公開放送を東海中学校にて実施(8/3・月曜)し、住民の健康保持・増進と運動習慣の醸成を行います。

● 環境配慮型設備設置費補(3,015万円)



従来の太陽光発電システムに加え、太陽熱温水器(定額3万円)や雨水貯留タンク(1/2補助、上限3万円)の設置購入にかかる費用の一部を補助し、CO₂削減を図ります。

● 東海村の今昔写真展(420万円)



東海村史編集時に収集された村の古い写真等を図書館(8月)およびステーションギャラリー(9月)に展示すると共に、写真集として印刷製本します。

● 東新川改修(2,960万円)



真崎浦土地改良区内を流れる東新川約3kmに渡り、土砂の浚渫および法面ブロックの張替え補修を行い、豪雨による堤防決壊等に対応できるよう改修します。

東海村発足 60周年を迎えて



昭和30年、当時の村松村と石神村とが合併して、現在の東海村が発足しました。当時の人口は約11,500人、サツマイモ以外に産業がなく寒村でしたが、翌年に原子力研究所の建設が決定して以来、東海村は飛躍的な発展を成し遂げてきました。

本年3月31日で、発足60周年を迎えたことから、1年を通じた様々な機会を捉えて、これまでの60年を振り返るとともに、今後の東海村の将来像について考えていきたいと思ひます。



▲昭和30年、合併当初の東海村の風景